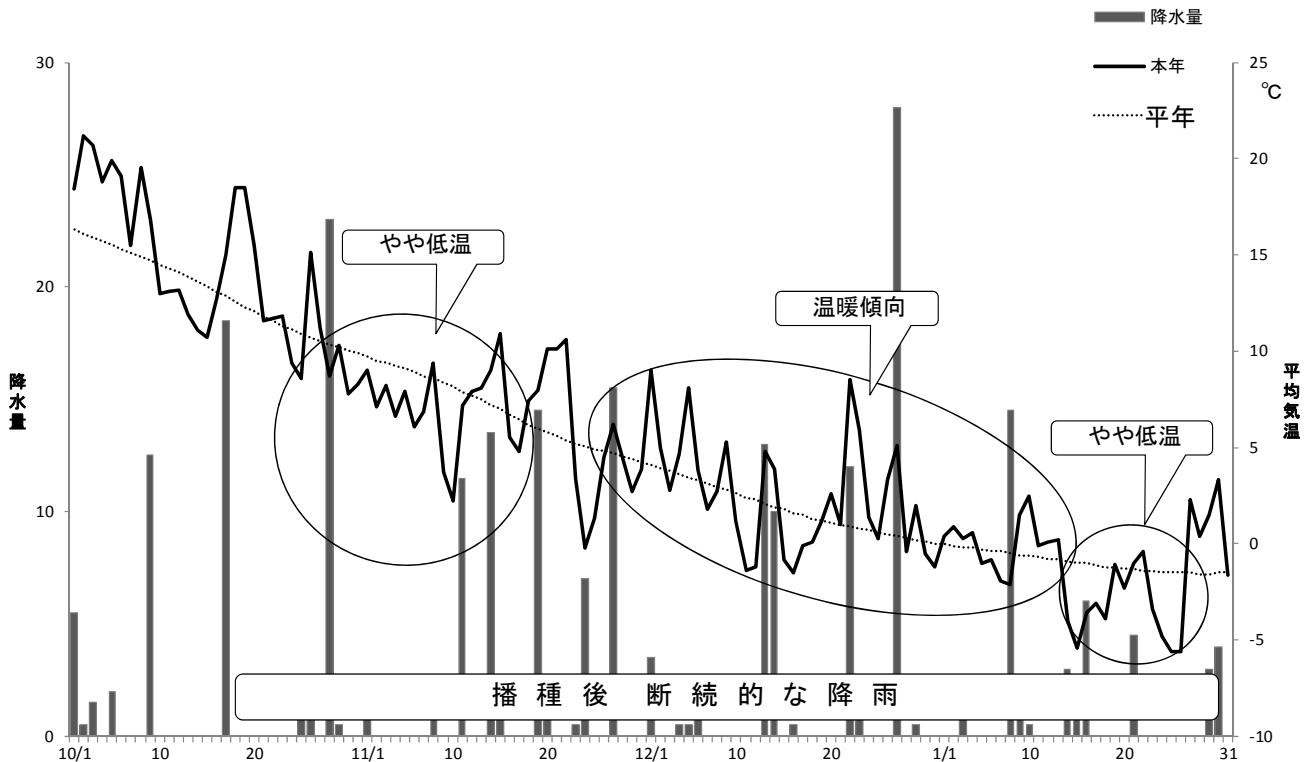


平成29年 作物技術普及情報第1号 (麦の生育状況と越冬後1回目の追肥について)

平成28-29年 麦 気象経過(穂高アメダス 1月31日現在)



1 気象状況

10月末から11月上旬は低温傾向で推移しましたが、その後年明けの1月上旬まで温暖傾向で推移しました。麦の播種期後半は断続的な降雨に見舞われたため、播種が遅れた圃場も見受けられます。年明けの1月8日には降雪があり、一時麦は雪の下にありましたが、その後気温の上昇と降雨により圃場の雪も消えました。

2 現在までの生育状況

【播種状況】

- 水田後麦の播種は10月15日頃より開始されましたが、播種時期に断続的な降雨があり、11月20日頃までかかって概ね終了しました。大豆後の播種も大豆の収穫作業が遅れたため、11月上旬から開始され、12月1日頃で概ね終了しましたが、一部12月上旬にずれ込みました。

【越冬後の生育状況】

2月上旬の生育状況は、概ね以下のとおりです。

【 越冬後（2月上旬）の生育状況】

播種日	葉令	茎数 (m ²)	生育	備考
10月中旬	6. 5葉	1000本以上	良	生育過剰気味
10月下旬	5. 5葉前後	600~800本前後	良	並~やや過剰
11月上旬	3~4葉前後	300~400本前後	やや良	やや少
11月中旬	1. 5葉前後	300本前後	やや不良	少
12月上旬	1葉	200本以下	不良	極少

3 越冬後の1回目の追肥について

1回目の追肥：越冬後～茎立期追肥（目的：茎数確保→穂数確保→収量確保）

2回目の追肥：止葉展開期追肥（目的：粒の肥大・タンパク向上による品質向上）
の2回の追肥が麦栽培の基本です。

追肥時期	生育回復	茎数増加	穂数増加	1穂着粒数	収量向上	粒の肥大	タンパクの向上	空洞粒の減少	倒伏増加
越冬後	◎	◎	◎	△	◎	—	—	△	●
幼穂形成期	△	○	○	○	◎	—	—	△	●
茎立期	—	△	△	○	◎	△	△	△	▲
止葉展開期	—	—	—	△	△	◎	◎	○	—

注)◎:効果大、○:効果やや大、△:効果あり、—:効果なし、●▲は悪影響

- 「越冬後の1回目の追肥」が収量確保のために重要なので、生育量にあわせた追肥をお願いします。越冬後の生育量と越冬後1回目の追肥時期・量については表1をご参考ください。
- 積雪により生育の判断が難しい場合は、越冬後の麦生育チャート「越冬後m²当茎数と1回目追肥時期・量の目安」を判断の目安としてご活用ください。

カラー版は、普及センターのホームページからダウンロードしてご利用ください。ダウンロードができない場合は、普及センターまでご相談ください。

表 1 越冬後の生育量と麦の 1 回目追肥時期・量の目安

生育状況	越冬後の茎数 (2月中旬～3月上旬)		追肥時期	追肥量 N : kg/10a (硫安kg/10a)	摘 要
	見た目	mあたり			
極少	2葉程度 (出芽したが分けつしていない)	200本以下	2月末	N 4～5 (20～25)	追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
少ない	3cm幅位の帯状所々とぎれている	200～300本前後	3月初旬	N 4 (20)	追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
やや少ない	3cm幅位の帯状	400～500本前後	3月上旬	N 4 (20)	追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
並 (良好)	5cm幅位の帯状所々とぎれている	600～700本前後	3月上～中旬	N 3 (15)	適正穂数確保と穂の充実
並 (良好)	5cm幅位の帯状	700～800本前後	3月上～中旬	N 2 (10)	適正穂数確保と穂の充実
多い	10cm幅位の帯状	1,000本以上	3月中旬	N 1～0 (5～0)	追肥量を減らし、時期も遅らせる。場合によっては追肥しない → 茎数過多・過繁茂の抑制

4 一施肥二鳥・麦追肥1発肥料を用いた省力追肥について

2 回目の止葉展開期追肥をしない省力的な体系です

	施肥体系	◎ 1 回目の追肥 (越冬後 3 月上中旬)	◎ 2 回目の追肥 (止葉展開期：4 月末～)
慣行体系	基肥 BB or エルちゃん + 慣行追肥 体系	N 2～4kg 硫安 10～20kg	N2～3kg 硫安 10～15kg
省力体系	基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥1発肥料 体系	N 6kg 麦追肥1発肥料 20kg	まかない
省力体系	基肥 一施肥二鳥 + 追肥一回 体系	N2～3kg 硫安 10～15kg	まかない

注) 上表のN (窒素量) は「めん用品種」の場合です。追肥一発はパン用の場合、30kg/10a 施用してください。

- 一施肥二鳥・麦追肥1発肥料を使用する場合の注意点【ご不明な点は、普及センター作物担当までご相談ください】

★ 基肥に、一施肥二鳥を使用してある場合 ★

・基肥に「一施肥二鳥」施用した場合は、茎数確保のため、越冬後の生育状況にあわせて、1回目の追肥にN2kg前後/10aを施用して下さい。

★ 追肥に、麦追肥 1 発肥料を使用する場合 ★

【大麦】

- ①生育過剰な圃場（畝間が見えないような圃場：茎数 1000 本／㎡以上）
 - ・倒伏の恐れがあるので、表 1 を参考に慣行追肥体系としてください。
- ②過剰気味な圃場（茎数 700～800 本／㎡以上）
 - ・基準量を追肥すると倒伏の恐れがあるので、施肥量を減らして、追肥一発肥料で 10kg／10a（N成分で3kg）とし、施肥時期は表 1 に準じてください。
- ③それ以外の圃場（茎数 700 本／㎡未満）
 - ・施肥量は基準量とし、施肥時期は生育状況に応じ、表 1 の追肥時期に準じてください。

【小麦】

- ①生育過剰な圃場（畝間が見えないような圃場：茎数 1000 本／㎡以上）
 - ・倒伏の恐れがあるので、表 1 を参考に慣行追肥体系としてください。
- ②過剰気味な圃場（茎数 700～800 本／㎡以上）
 - ・基準量を追肥すると倒伏の恐れがありますが、倒伏を抑えるために、麦追肥一発肥料の施肥量を減らすと、タンパクが低下する恐れがあります。
したがって基本的には、表 1 を参考に慣行追肥体系が望ましいと思われます。
ご不明な点は、普及センター作物担当までご相談ください。
- ③それ以外の圃場（茎数 700 本／㎡未満）
 - ・施肥量は基準量とし、施肥時期は生育状況に応じ、表 1 の追肥時期に準じてください。

5 【追肥上の注意事項】

- 1) 「しゅんよう」「ゆめかおり（パン用品種）」→茎数が増えやすいので施用量には注意して下さい。
多追肥 → 茎数過多 → 穂数過多 → 倒伏
- 2) 塩安を使用する場合、硫安より窒素成分が高い（25%）なので、まき過ぎに注意して下さい。

N5kg→塩安 20kg、 N4kg→塩安 16kg、 N3kg→塩安 12kg、 N2kg→塩安 8kg
硫安 25kg →硫安 20kg →硫安 15kg →硫安 10kg

4) 積雪時の麦追肥について

- ① 麦の生育状況を見てから追肥時期・量を判断してください。
積雪で判断が難しい場合は播種時期と麦生育チャートをご参考ください。
- ② 基本的には雪がとけてから追肥してください。
- ③ 雪どけを待つと追肥時期を逃す場合や、雪どけのぬかるみや停滞水で、施肥作

業が困難になる場合は、ほ場状況を見て作業が可能なら、多少の積雪があるうちに追肥を行っても差し支えありません。

この場合、ほ場での播きムラにご注意ください。また、積雪中での作業になるので、用水路やほ場への転落・転倒に十分注意して作業してください。

ブロードキャスター等で追肥作業する場合は、雪や土の締まっている午前中に作業してください（作業時のぬかるみ防止）。

6 湿害対策

- ・ カミ雪のように一時的な大雪の場合は、その後の降雨や気温上昇に伴い、一気に融雪して圃場が湛水してしまう場合があります（写真）。
このような圃場は湿害を受けやすくなります。これからカミ雪の季節を迎えるので注意が必要です。
- ・ 水口は止まっているか（水路からの雪解け水の流入防止）、排水口・排水路はつまっていないか（圃場の停滞水防止）を今一度確認していただき、湿害対策に万全を記していただくようお願いします。

